

本日はインディアナポリスで一番忙しい一日となりました。まだ外も暗い7:30にホテルを出発し約一時間かけて富士部品工業へ向かいます。予定より早く到着してしまったのですが、快く社内に通して頂きました。社員の方が働いているオフィスを抜け通されたのは” WELCOME OTA MUNICIPAL HIGH SCHOOL” と横断幕が掲げられた部屋でした。机の上には一人一人名前入りの記念碑が置かれており、皆驚きを隠せない中、日本からわざわざ来てくださった金井会長、松崎社長と、FCPの社長である前原さんに歓迎の言葉を頂きました。FCPの会社概要についてスライドを使いご説明いただくと、次から次へと質問の手が挙がります。この先電気自動車流通したら部品生産は減るのでは？との問いには、そうなればまた新しいパーツが必要となるとの見解も。金井会長からはこの研修でアメリカにやってきたことも挑戦であり、うまく行かなかったことがあったとしてもそれが財産になる、失敗を恐れないでとのメッセージを頂きました。毎日が挑戦で、思ったようには進まないこともある中、この言葉は胸に響いたのではないかと思います。その後工場内の案内をしていただき、部品が作られていく行程を見せて頂きました。見学中も、終わってからも、機械のことだけでなく過去の失敗やアメリカについてなど様々な質問をぶつけ、「専門家みたいな質問だ」と言われる生徒も。お昼は富士部品さんにご用意いただいた日本食のお弁当で、久々の日本食と言うこともありこの時ばかりは食に集中していました。

午後に訪れたのはモアーズビル高校。約1,400名の公立高校です。こちらでは校長先生や多くの先生が出迎えてくれ9名の生徒が待つ講堂へ案内されました。最初に、校長先生からモアーズビル高校の生徒に様々な問いかけをしながらこの高校について説明をしていただきました。どんな選択授業を取っているのか、クラブ活動は何をしているのか、大学では何を専攻する予定か、など話してくれましたが、話すスピードが速く理解が難しかったようです。その後、3グループに分かれキャンパスを案内してもらったのですが、最初に「ゆっくり話して下さい」とお願いし、徐々に質問がしやすくなりました。授業中の教室に入れて頂き、どんな勉強をしているのかを間近で見ることが出来ました。緊張してなかなか言葉が出てこない生徒たちに対し現地生徒から話しかけてくれることも多く、日本との違いなど言いたいことが通じた時は本当に嬉しそうでした。同年代の生徒たちでしたが、自由なファッションと常に会話をリードしてくれる余裕があったからか、現地生徒の方がだいぶ大人びて見えたようです。

本日最後の訪問先は東亜工業株式会社です。こちらでもスライドを使った会社概要をご説明いただいた後、工場見学をさせて頂きました。案内役は副社長のボブさんでしたので、当然英語で行われ、補足がある場合だけ通訳の方にサポート頂きました。質問はどうしても日本語で聞く生徒が多くはなってしまうしましたが、それだけ具体的な内容を聞きたいと事前に勉強してきた結果でもあります。全員の声を聞きたいと言うことで時間ぎりぎりまで質問を募りました。工場内を見て不思議に思ったこと、富士部品工業と関連付けた質問

など、それぞれ個性あふれる内容でした。最後の生徒挨拶では、手配いただいたモアーズビル高校での交流について感謝の言葉がありました。そして、次は通訳なしで工場見学ができるようにとの目標に、社員の皆さんも笑顔になりました。



富士部品工業訪問



生徒からの質問



工場見学①



工場見学②



富士部品工業にて集合写真



モアーズビル高校訪問



現地高校生との質疑応答



授業見学



モアーズビル高校にて集合写真



東亜工業訪問



工場見学



生徒からのお礼の言葉